

2018年度「国際化推進担当者研修～学外組織・地域との連携の可能性～」 実施報告

開催日時：2019年3月15日(金) 9:30～18:30

開催場所：キャンパスポート大阪 ルームA

参加者数：21名(大学コンソーシアム大阪会員校以外からの参加者1名を含む)

参加大学数：16校(大学コンソーシアム大阪会員校以外1大学を含む)

※本研修には、会員大学以外からの講師として以下のおふたりにご協力をいただいた。

- ・仲谷元伸様(大阪府政策企画部 万博誘致推進室 参事 事業推進グループ長)
- ・加藤健様(関西SDGプラットフォーム事務局・JICA 関西 参事役 兼 市民参加協力課 課長)

1. 研修の目的

「国際化」は、単に留学生の受入れや、学生の海外派遣、語学教育の充実だけではないことを理解し、「グローバル」な視点から自大学の国際化施策を(再)検討する機会を提供する。特に、自大学の「国際化」を推進するための施策立案にあたって、学内のリソースに限定せず、学外組織や地域との連携を視野に入れることを理解する。

特に大学コンソーシアム大阪の位置する大阪府は、日本が初めて議長国となって開催される「G20 サミット」の首脳会議の開催地でもあり、ラグビーワールドカップ2019においても東大阪市にある花園ラグビー場が会場となっている。続く2020年は、オリンピックイヤーとして日本全体が国際的なイベントに盛り上がる。その勢いは、2025年に大阪で開催されることが決定した「関西・大阪万博」まで継続することと予想される。そのような環境の中で、国際的なイベント開催地として地域の住民や産業界が「国際化」や「グローバル化」への大学の貢献を求める機運が高まることは疑う余地もない。このような外部環境をふまえ、今回の研修においては、「大阪府政策企画部」と「関西SDGsプラットフォーム」より講師をお招きした研修とし、大学が立地する地域の国際的なイベント等に大学が貢献するという気づきを促すことも期待された。

2. 研修到達目標

本研修の到達目標は、以下の7つである。

- ① 「国際交流」、「国際化」、「グローバル化」の相違について説明できる。
- ② 国連のアカデミック・インパクトについて説明できる。
- ③ SDGs および関西SDGsプラットフォームについて説明できる。
- ④ 学外組織と連携した留学生受入れの取組みについてアイデアを一つ以上述べるができる。
- ⑤ 地域社会と連携した「地域の国際化」への貢献方法についてアイデアを一つ以上述べることができる。
- ⑥ 高等教育における「多様性」の意義について説明できる。
- ⑦ 自大学の「国際化」推進のために自分ができることを述べるができる。

3. 研修日程と担当講師

(1) 研修日程は、以下の表のとおり。

時間	内容	担当講師
9:30～9:50	日程説明・アイスブレイク	塩川雅美 (大阪市立大学)
9:50～10:40	大阪府の国際イベントと大学	仲谷元伸 様 (大阪府政策企画部 万博誘致推進室 参事 事業推進グループ長)
10:50～11:30	関西 SDGs プラットフォームについて	加藤健 様 (関西 SDGs プラットフォーム事務局・ JICA 関西 参事役 兼 市民参加協力課 課長)
11:30～11:40	午前中の振り返り	塩川雅美 (大阪市立大学)
11:40～12:30	昼食休憩	
12:30～12:40	「学外との連携」について	塩川雅美 (大阪市立大学)
12:40～13:10	留学生受入れの視野を広げる	畑中みどり (大阪学院大学 国際センター 派遣留学コーディネーター)
13:10～14:10	留学生と地域の交流	栗林知美 (大阪府立大学 国際・地域連携 課 課長補佐 (国際交流グループ長))
14:20～14:30	「グローバルからユニバーサルへ」	塩川雅美 (大阪市立大学)
14:30～15:30	LGBT 学生の支援～米国大学における LGBT 学生の海外留学支援をもとに日 本での留学生受入体制を考える～	西脇菜穂子 (関西大学 教育開発支援セン ター事務局 学事局 授業支援グループ)
15:30～15:50	「海外の大学から学ぶ」	塩川雅美 (大阪市立大学)
16:00～17:00	海外の大学から学ぶ～2018 年度海外 SD 研修に参加して～	・朝倉由衣 (摂南大学 就職部就職課) ・浅田直哉 (大阪経済大学 財務部) ・香山由希 (大阪女学院大学 教務・学生 課)
17:00～17:30	振り返り、修了証授与、記録写真撮影	
16:50～17:30	情報交換会 (ネットワーキング)	

(2) 仲谷元伸 様 (大阪府政策企画部 万博誘致推進室 参事 事業推進グループ長) のご講義 抜粋

仲谷様からは、国際博覧会 (万博) の歴史や変遷についてのご紹介があり、現代の万博は「人類共通の課題解決」の場となっており、1970 年大阪万博当時の「国威発揚型」とは異なることに注意が必要と説明いただいた。2025 年大阪・関西万博のテーマは、「いのち輝く未来社会のデザイン」であり、人類共通の課題解決に向けての取り組みとなる「SDGs」の達成目標年である 2030 年の 5 年前に、万博を通じて日本 (大阪・関西) から、その解決策を世界に向けて発信していきたい、といったご説明をいただいた。誘致活動用のプロモーション・ムービーも視聴させていただいたことで 2025 年万博のイメージが研修参加者にも身近に感じられた。

(3) 加藤健様(関西 SDGs プラットフォーム事務局・JICA 関西参事役 兼 市民参加協力課課長)
のご講義抜粋

加藤様からは、今や THE(Times Higher Education)の大学評価にも「SDGs への取り組み」が含まれるようになってきていることをご説明の冒頭にご紹介いただき、大学も SDGs への取り組みが避けては通れない時代になっていることを喚起していただいた。

また、関西地域の産官学民が SDGs 推進に共に取り組むためのプラットフォームとして「関西 SDGs プラットフォーム」が 2017 年 12 月に創設されたところ、大学が SDGs に取り組むにあたっての情報収集・発信や産業界等の外部の機関や団体との協働に活用できるとの説明があった。実際の大学生の取り組みとして関西地域の医学部の学生たちの「WAKAZO」というグループの活動(万博において SDGs で示された社会課題の解決を議論する若者のパビリオン創設の取り組み等)についてのご紹介があった。

4. 研修終了後の参加者からのアンケート結果については、「参加者アンケート」に掲載。

5. 研修参加者の声(大学名五十音順、敬称略)

※研修統括者の塩川から依頼し、研修参加者のうち 2 名に執筆いただいた。

派遣留学の担当者として今後のプログラム開発に繋がるヒントを求め、3月15日に実施された「国際化推進担当者研修」へ参加しました。その中でも国連が推進する Sustainable Development Goals(SDGs)及び国連アカデミックインパクトに関する情報を得られたことは大きな収穫でした。関西 SDGs プラットフォームという機会を活用した企業との連携プログラムを今後模索していく契機になった他、プログラム開発担当者としてではなく「大学」として視野を広げ、SDGs を活用し海外大学とのコミュニケーションを深めることができる点は開眼でした。

当初の目的のヒントも得られましたが、上のおり SDGs を活用することで現場での個々の取り組みが「大学の国際化」として意味づけられるということを知れたことが大きな学びでした。

(追手門学院大学 国際交流教育センター 島田信孝様)

大学間協定業務に従事し、学生への留学前研修、英語授業等を担当しています。研修で教職員の方々から様々な部署で進められている国際交流・地域連携業務を拝聴し、「国際交流」「国際化」「グローバル化」の相違について考え、意見交換をすることは、自分の担当業務を振り返る良い機会となりました。

各国の高等教育機関や国連との連携を促す国連のアカデミック・インパクト、持続可能な開発目標(SDGs)の取り組みに関し、当日参加された大学の多くが実践されていることにも感銘を受けました。

プログラム司会進行を担当された塩川教授に感謝を申し上げます。研修で新たに学んだ取り組みの実践を目指し、「真の国際化」について今後も努力する所存です。

(大阪観光大学 国際交流学部専任教員 教授/国際交流センター 佐藤晶子様)

(本報告全体の文責：大学コンソーシアム大阪 SD 研修コーディネーター 塩川雅美)